

石運輸第59号の2
令和6年5月2日

一般旅客自動車運送事業者 各位

北陸信越運輸局石川運輸支局長

標準仕様ユニバーサルデザインタクシー認定要領の一部改正について

標記について、別添のとおり北陸信越運輸局長から通知があったので了知願います。

北信交旅第36号
令和6年4月22日

管内各運輸支局長 殿

北陸信越運輸局長

標準仕様ユニバーサルデザインタクシー認定要領の一部改正について

標記について、物流・自動車局長から別添のとおり通達があったので、了知されるところに関係者に対し周知されたい。

国自旅第439号の2
令和6年4月1日

北陸信越運輸局長 殿

国土交通省物流・自動車局長
(公印省略)

標準仕様ユニバーサルデザインタクシー認定要領の一部改正について

国土交通省では、平成24年3月に「標準仕様ユニバーサルデザインタクシー認定要領」を定め、当該標準仕様を満たすユニバーサルデザインタクシーについて認定を行っている。

今般、移動等円滑化実績報告における直近のユニバーサルデザインタクシーの導入状況における地域格差を是正し、主に地方部での需要に緊急的に対応するため当該認定要領を改正したので、その取扱いについて遺漏なきよう取り計らわれない。

標準仕様ユニバーサルデザインタクシー認定要領の一部改正について

標準仕様ユニバーサルデザインタクシー認定要領の一部を次のように改正する。

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付し又は破線で囲んだ部分をこれに順次対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付し又は破線で囲んだ部分のように改め、改正前欄及び改正後欄に対応して掲げるその標記部分に二重傍線を付した規定は、改正前欄に掲げる対象規定を改正後欄に掲げる対象規定として移動し、改正後欄に掲げる対象規定で改正前欄にこれに対応するものを掲げていないものは、これを加える。

改正後	改正前
<p>第1 目的等</p> <p>移動等円滑化の促進に関する基本方針において移動等円滑化の目標が定められているノンステップバスの基準等を定める告示（平成24年国土交通省告示第257号）第4条第1項の規定に<u>基づき、標準仕様ユニバーサルデザインタクシーを国が認定する制度を創設し、これにより標準仕様ユニバーサルデザインタクシーの普及等を図ることとする。</u></p> <p>第2 標準仕様</p> <p>標準仕様は、次に掲げる認定のレベルに応じ、それぞれ当該各号に掲げる項目の全てを満たさなければならないものとする。</p> <p>(1) 認定レベル準1 別表に掲げる標準仕様認定項目（レベル準1）</p> <p>(2) 認定レベル1 別表に掲げる標準仕様認定項目（レベル1）</p> <p>(3) 認定レベル2 別表に掲げる標準仕様認定項目（レベル2）</p> <p>第3 認定の対象</p> <p>標準仕様の認定は、現に製造を行っている<u>車両</u>であって、その仕様が標準仕様を満たすものを対象とする。</p>	<p>第1 目的等</p> <p>移動等円滑化の促進に関する基本方針において移動等円滑化の目標が定められているノンステップバスの基準等を定める告示（平成24年国土交通省告示第257号）第4条第1項の規定に<u>基づき、及び一般乗用旅客自動車運送事業に係るユニバーサルデザインタクシーについて、その普及を促進するとともに、さらに優れたユニバーサルデザインタクシー車両の開発を促進することを目指した「地域のニーズに応じたバス・タクシーに係るバリアフリー車両の開発報告書」（平成23年6月国土交通省自動車交通局）の趣旨に基づき、標準仕様ユニバーサルデザインタクシーを国が認定する制度を創設し、これにより標準仕様ユニバーサルデザインタクシーの普及等を図ることとする。</u></p> <p>第2 標準仕様</p> <p>標準仕様は、次に掲げる認定のレベルに応じ、それぞれ当該各号に掲げる項目の全てを満たさなければならないものとする。</p> <p>（新設）</p> <p>(1) 認定レベル1 別表に掲げる標準仕様認定項目（レベル1）</p> <p>(2) 認定レベル2 別表に掲げる標準仕様認定項目（レベル2）</p> <p>第3 認定の対象</p> <p>標準仕様の認定は、現に製造を行っている<u>ユニバーサルデザインタクシー</u>であって、その仕様が標準仕様を満たすものを対象とする。<u>ただし、認定の対象となるユニバーサルデザインタクシーは、高齢者、障害者等以外の者の流し営業による利用（高齢者、障害者等の介護、介助等のためにこ</u></p>

これらの者と同乗する場合の利用を除く。以下「一般の利用」という。）が想定されるものとして、最大乗車定員が5名以下のものを原則とする。

別表

部位等	標準仕様認定項目 (レベル準1)	標準仕様認定項目 (レベル1)	標準仕様認定項目 (レベル2)
乗降口等	<ul style="list-style-type: none"> 乗降口の1カ所は、スロープ（別体のスロープを含む。以下同じ。）、その他の車いす使用者の乗降を円滑にする設備が備えられていること。 車いすのまま乗車できる乗降口を1以上設け、その幅は640mm以上、高さは1,200mm以上とする。 高齢者等の乗降 	<ul style="list-style-type: none"> 乗降口の1カ所は、スロープ（別体のスロープを含む。以下同じ。）、その他の車いす使用者の乗降を円滑にする設備が備えられていること。 車いすのまま乗車できる乗降口を1以上設け、その幅は700mm以上、高さは1,300mm以上とする。 高齢者等の乗降 	<ul style="list-style-type: none"> 乗降口の1カ所は、スロープ（別体のスロープを含む。以下同じ。）、その他の車いす使用者の乗降を円滑にする設備が備えられていること。 車いすのまま乗車できる乗降口を1以上設け、その幅は800mm以上、高さは1,350mm以上とする。ただし、小型自動車（道路運送車両法体系に規定する小型自動車をいう。以下同じ。）の場合の幅は700mm以上で良いこととする。 高齢者等の乗降

別表

部位等	標準仕様認定項目 (レベル1)	標準仕様認定項目 (レベル2)
乗降口等	<ul style="list-style-type: none"> 乗降口の1カ所は、スロープ（別体のスロープを含む。以下同じ。）、その他の車いす使用者の乗降を円滑にする設備が備えられていること。 車いすのまま乗車できる乗降口を1以上設け、その幅は700mm以上、高さは1,300mm以上とする。 高齢者等の乗降等を円滑に 	<ul style="list-style-type: none"> 乗降口の1カ所は、スロープ（別体のスロープを含む。以下同じ。）、その他の車いす使用者の乗降を円滑にする設備が備えられていること。 車いすのまま乗車できる乗降口を1以上設け、その幅は800mm以上、高さは1,350mm以上とする。ただし、小型自動車（道路運送車両法体系に規定する小型自動車をいう。以下同じ。）の場合の幅は700mm以上で良いこととする。 高齢者等の乗降等を円滑に

等を円滑にするため、停車時の乗降口（車いす専用の乗降口を除く。）の地上高は、360mm以下とする。ただし、360mmを超える地上高の場合であって、備付けまたは別体の補助ステップ等を備えるときは、この限りでない。なお、補助ステップ等を設置する場合は、高齢者、松葉杖使用者等の乗降補助のために、1段の高さが260mm以下、奥行150mm以上となるような補助ステップ等を設置すること。また、補助ステップ等は2段以内に限る。

等を円滑にするため、停車時の乗降口（車いす専用の乗降口を除く。）の地上高は、350mm以下とする。ただし、350mmを超える地上高の場合であって、備付けまたは別体の補助ステップ等を備えるときは、この限りでない。なお、補助ステップ等を設置する場合は、高齢者、松葉杖使用者等の乗降補助のために、1段の高さが260mm以下、奥行150mm以上となるような補助ステップ等を設置すること。また、補助ステップ等は2段以内に限る。

- ・乗降口の端部（補助ステップ、手すりを含む）

等を円滑にするため、停車時の乗降口（車いす専用の乗降口を除く。）の地上高は、300mm以下とする。ただし、300mmを超える地上高の場合であって、備付けまたは別体の補助ステップ等を備えるときは、この限りでない。なお、補助ステップ等を設置する場合は、高齢者、松葉杖使用者等の乗降補助のために、1段の高さが200mm以下、奥行200mm以上となるような補助ステップ等を設置すること。また、地上高の上限は350mmとし、補助ステップ等は1段以内に限る。

- ・乗降口の端部（助ステップ、手すりを含む）

するため、停車時の乗降口（車いす専用の乗降口を除く。）の地上高は、350mm以下とする。ただし、350mmを超える地上高の場合であって、備付けまたは別体の補助ステップ等を備えるときは、この限りでない。なお、補助ステップ等を設置する場合は、高齢者、松葉杖使用者等の乗降補助のために、1段の高さが260mm以下、奥行150mm以上となるような補助ステップ等を設置すること。また、補助ステップ等は2段以内に限る。

- ・乗降口の端部（補助ステップ、手すりを含む）は、その周囲の部分や路面との明

するため、停車時の乗降口（車いす専用の乗降口を除く。）の地上高は、300mm以下とする。ただし、300mmを超える地上高の場合であって、備付けまたは別体の補助ステップ等を備えるときは、この限りでない。なお、補助ステップ等を設置する場合は、高齢者、松葉杖使用者等の乗降補助のために、1段の高さが200mm以下、奥行200mm以上となるような補助ステップ等を設置すること。また、地上高の上限は350mmとし、補助ステップ等は1段以内に限る。

- ・乗降口の端部（補助ステップ、手すりを含む）は、その周囲の部分や路面との明

		<p>む)は、その周囲の部分や路面との明度差が大きいこと等により、身体障害者、高齢者が端部を容易に識別しやすいようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間においても足元が見やすいように、乗降口又はその近辺には、ドア開口時に点灯し足下周辺を照射する照明灯を設置する。 	<p>は、その周囲の部分や路面との明度差が大きいこと等により、身体障害者、高齢者が端部を容易に識別しやすいようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間においても足元が見やすいように、乗降口又はその近辺には、ドア開口時に点灯し足下周辺を照射する照明灯を設置する。 ・車いす固定スペースに傾斜がある場合にあつては、車いす乗車時に後退を防止する機構が設けられていること。 		<p>度差が大きいこと等により、身体障害者、高齢者が端部を容易に識別しやすいようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間においても足元が見やすいように、乗降口又はその近辺には、ドア開口時に点灯し足下周辺を照射する照明灯を設置する。 	<p>度差が大きいこと等により、身体障害者、高齢者が端部を容易に識別しやすいようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間においても足元が見やすいように、乗降口又はその近辺には、ドア開口時に点灯し足下周辺を照射する照明灯を設置する。 ・車いす固定スペースに傾斜がある場合にあつては、車いす乗車時に後退を防止する機構が設けられていること。
スロープ	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者の乗降を円滑にするために車いすの乗降口に設置するスロープの 	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者の乗降を円滑にするために車いすの乗降口に設置するスロープの 	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者の乗降を円滑にするために車いすの乗降口に設置するスロープの 	スロープ	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者の乗降を円滑にするために車いすの乗降口に設置するスロープの勾配は、14度(約1/4)以下とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者の乗降を円滑にするために車いすの乗降口に設置するスロープの勾配は、10度(約1/6)以下とする。ただし、車いすが側

	<p>勾配は、14度（約1/4）以下とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スロープの車いすの車輪が通過する面の幅は640mm以上とする。 ・ 車いすのスロープからの脱輪防止のためエッジのある構造とする。エッジの高さは車いすのハンドリムと干渉しないよう留意する。 ・ スロープの表面は滑りやすい素材又は仕上げとする。 ・ スロープの耐荷 	<p>勾配は、14度（約1/4）以下とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スロープの車いすの車輪が通過する面の幅は700mm以上とする。 ・ 車いすのスロープからの脱輪防止のためエッジのある構造とする。エッジの高さは車いすのハンドリムと干渉しないよう留意する。 ・ スロープの表面は滑りやすい素材又は仕上げとする。 ・ スロープの耐荷 	<p>勾配は、10度（約1/6）以下とする。ただし、車いすが側方から乗車する仕様の場合にあっては、歩道の幅を勘案し、スロープの勾配を14度（約1/4）まで許容する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スロープの車いすの車輪が通過する面の幅は700mm以上とする。 ・ 車いすのスロープからの脱輪防止のためエッジのある構造とする。エッジの高さは車いすのハンドリムと干渉しないよう留意する。 ・ スロープの表面は滑りやすい素材又は仕上げとする。 ・ スロープの耐荷 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スロープの車いすの車輪が通過する面の幅は700mm以上とする。 ・ 車いすのスロープからの脱輪防止のためエッジのある構造とする。エッジの高さは車いすのハンドリムと干渉しないよう留意する。 ・ スロープの表面は滑りにくい素材又は仕上げとする。 ・ スロープの耐荷重は、電動 	<p>方から乗車する仕様の場合にあっては、歩道の幅を勘案し、スロープの勾配を14度（約1/4）まで許容する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スロープの車いすの車輪が通過する面の幅は700mm以上とする。 ・ 車いすのスロープからの脱輪防止のためエッジのある構造とする。エッジの高さは車いすのハンドリムと干渉しないよう留意する。 ・ スロープの表面は滑りにくい素材又は仕上げとする。 ・ スロープの耐荷重は、電動
--	--	--	--	--	---

	<p>重は、車いす本体、車いす使用者本人、介助者の重量等を勘案し200kg以上とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スロープは乗降口から脱落しない構造とする。 ・ スロープと床面に段差ができないような構造とする。ただし、段差が車いすの車輪と干渉しない場合、スロープと乗降口の継ぎ目に僅少な段差を生じる場合その他の車いすの乗降に支障のない段差が生じる場合にあつては、当該段差は許容される。 ・ スロープは使用に便利で、乗客にとって安全な場所に備えられ 	<p>重は、電動車いす本体（80～100kg程度）、車いす使用者本人、介助者の重量等を勘案し300kg以上とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スロープは乗降口から脱落しない構造とする。 ・ スロープと床面に段差ができないような構造とする。ただし、段差が車いすの車輪と干渉しない場合、スロープと乗降口の継ぎ目に僅少な段差を生じる場合その他の車いすの乗降に支障のない段差が生じる場合にあつては、当該段差は許容される。 ・ スロープは使用に便利で、乗客にとって安全な場所に備えられ 	<p>重は、電動車いす本体（80～100kg程度）、車いす使用者本人、介助者の重量等を勘案し300kg以上とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スロープは乗降口から脱落しない構造とする。 ・ スロープと床面に段差ができないような構造とする。ただし、段差が車いすの車輪と干渉しない場合、スロープと乗降口の継ぎ目に僅少な段差を生じる場合その他の車いすの乗降に支障のない段差が生じる場合にあつては、当該段差は許容される。 ・ スロープは使用に便利で、乗客にとって安全な場所に備えられ 		<p>車いす本体（80～100kg程度）、車いす使用者本人、介助者の重量等を勘案し300kg以上とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スロープは乗降口から脱落しない構造とする。 ・ スロープと床面に段差ができないような構造とする。ただし、段差が車いすの車輪と干渉しない場合、スロープと乗降口の継ぎ目に僅少な段差を生じる場合その他の車いすの乗降に支障のない段差が生じる場合にあつては、当該段差は許容される。 ・ スロープは使用に便利で、乗客にとって安全な場所に備えられたものであること。 	<p>車いす本体（80～100kg程度）、車いす使用者本人、介助者の重量等を勘案し300kg以上とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スロープは乗降口から脱落しない構造とする。 ・ スロープと床面に段差ができないような構造とする。ただし、段差が車いすの車輪と干渉しない場合、スロープと乗降口の継ぎ目に僅少な段差を生じる場合その他の車いすの乗降に支障のない段差が生じる場合にあつては、当該段差は許容される。 ・ スロープは使用に便利で、乗客にとって安全な場所に備えられたものであること。
--	--	--	--	--	--	--

	たものであること。	たものであること。	たものであること。			
乗降用手すり		<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者・高齢者の乗降の円滑化、姿勢保持、立ち座り、安全確保のために、乗降口又はその周辺に手すり等を設置する。 ・夜間や薄暗い時、又は高齢者、弱視者の安全のために、手すりは容易に識別できる配色であること。 ・手すりの色は朱色又は黄赤とする。 ・手すりとその周囲の部分との色の明度差をつける。 ・身体障害者・高齢者が握りやすい形状であること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者・高齢者の乗降の円滑化、姿勢保持、立ち座り、安全確保のために、乗降口又はその周辺に手すり等を設置する。 ・夜間や薄暗い時、又は高齢者、弱視者の安全のために、手すりは容易に識別できる配色であること。 ・手すりの色は朱色又は黄赤とする。 ・手すりとその周囲の部分との色の明度差をつける。 ・身体障害者・高齢者が握りやすい形状であること。 	乗降用手すり	<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者・高齢者の乗降の円滑化、姿勢保持、立ち座り、安全確保のために、乗降口又はその周辺に手すり等を設置する。 ・夜間や薄暗い時、又は高齢者、弱視者の安全のために、手すりは容易に識別できる配色であること。 ・手すりの色は朱色又は黄赤とする。 ・手すりとその周囲の部分との色の明度差をつける。 ・身体障害者・高齢者が握りやすい形状であること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者・高齢者の乗降の円滑化、姿勢保持、立ち座り、安全確保のために、乗降口又はその周辺に手すり等を設置する。 ・夜間や薄暗い時、又は高齢者、弱視者の安全のために、手すりは容易に識別できる配色であること。 ・手すりの色は朱色又は黄赤とする。 ・手すりとその周囲の部分との色の明度差をつける。 ・身体障害者・高齢者が握りやすい形状であること。

		<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者・高齢者が握りやすいように、手すりの表面は滑りにくい材質や仕上げであること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者・高齢者が握りやすいように、手すりの表面は滑りにくい材質や仕上げであること。 		<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者・高齢者が握りやすいように、手すりの表面は滑りにくい材質や仕上げであること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者・高齢者が握りやすいように、手すりの表面は滑りにくい材質や仕上げであること。
床の材質、形状	<ul style="list-style-type: none"> ・床（乗降口付近の床を含む。）の材質は、滑りにくい仕上げとする。ただし、材質の性質上、滑りにくいことが確保されている場合はこの限りではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・床（乗降口付近の床を含む。）の材質は、滑りにくい仕上げとする。ただし、材質の性質上、滑りにくいことが確保されている場合はこの限りではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・床（乗降口付近の床を含む。）の材質は、滑りにくい仕上げとする。ただし、材質の性質上、滑りにくいことが確保されている場合はこの限りではない。 	床の材質、形状	<ul style="list-style-type: none"> ・床（乗降口付近の床を含む。）の材質は、滑りにくい仕上げとする。ただし、材質の性質上、滑りにくいことが確保されている場合はこの限りではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・床（乗降口付近の床を含む。）の材質は、滑りにくい仕上げとする。ただし、材質の性質上、滑りにくいことが確保されている場合はこの限りではない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者が安楽で適正な座位姿勢を保てるように、車いす固定スペースの床面は、車いす固定時に車いすの傾斜が15度（約1/4）以下となることを確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者が安楽で適正な座位姿勢を保てるように、車いす固定スペースの床面は、車いす固定時に車いすの傾斜が10度（約1/6）以下となることを確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者が安楽で適正な座位姿勢を保てるように、車いす固定スペースの床面は、車いす固定時に車いすの傾斜が概ね水平となることを確保する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者が安楽で適正な座位姿勢を保てるように、車いす固定スペースの床面は、車いす固定時に車いすの傾斜が10度（約1/6）以下となることを確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者が安楽で適正な座位姿勢を保てるように、車いす固定スペースの床面は、車いす固定時に車いすが概ね水平となることを確保する。
車いすスペース	<ul style="list-style-type: none"> ・次に掲げる規格に適合する車い 	<ul style="list-style-type: none"> ・次に掲げる規格に適合する車い 	<ul style="list-style-type: none"> ・次に掲げる規格に適合する車い 	車いすスペース	<ul style="list-style-type: none"> ・次に掲げる規格に適合する車いすスペースを1以上設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・次に掲げる規格に適合する車いすスペースを1以上設置

<p>ス</p>	<p>すスペースを1以上設置する。</p> <p>位置：車いすスペースは、車いすの進入しやすい位置に設ける。</p> <p>広さ：車いすを固定するスペースは、長さ1,100mm以上、幅630mm以上、高さ1,300mm以上とする。寸法の測り方は別添に規定するとおりとする。</p> <p>車いす使用者の視界の確保：車いす使用者の外への視界を、座席利用者同様に確保する。</p> <p>・車いすが側方から乗車する仕様の場合にあっては、車内には車いすが介助により転回できるス</p>	<p>すスペースを1以上設置する。</p> <p>位置：車いすスペースは、車いすの進入しやすい位置に設ける。</p> <p>広さ：車いすを固定するスペースは、長さ1,300mm以上、幅750mm以上、高さ1,350mm以上とする。寸法の測り方は別添に規定するとおりとする。</p> <p>車いす使用者の視界の確保：車いす使用者の外への視界を、座席利用者同様に確保する。</p> <p>・車いすが側方から乗車する仕様の場合にあっては、車内には車いすが介助により転回できるス</p>	<p>すスペースを1以上設置する。</p> <p>位置：車いすスペースは、車いすの進入しやすい位置に設ける。</p> <p>広さ：車いすを固定するスペースは、長さ1,300mm以上、幅750mm以上、高さ1,400mm以上とする。寸法の測り方は別添に規定するとおりとする。</p> <p>車いす使用者の視界の確保：車いす使用者の外への視界を、座席利用者同様に確保する。</p> <p>・車いすが側方から乗車する仕様の場合にあっては、車内には車いすが介助により転回できるス</p>	<p>ス</p>	<p>する。</p> <p>位置：車いすスペースは、車いすの進入しやすい位置に設ける。</p> <p>広さ：車いすを固定するスペースは、長さ1,300mm以上、幅750mm以上、高さ1,350mm以上とする。寸法の測り方は別添に規定するとおりとする。</p> <p>車いす使用者の視界の確保：車いす使用者の外への視界を、座席利用者同様に確保する。</p> <p>・車いすが側方から乗車する仕様の場合にあっては、車内には車いすが介助により転回できるスペースを確保する。ただし、回転盤を使用する場合はこの限りでは</p>	<p>する。</p> <p>位置：車いすスペースは、車いすの進入しやすい位置に設ける。</p> <p>広さ：車いすを固定するスペースは、長さ1,300mm以上、幅750mm以上、高さ1,400mm以上とする。寸法の測り方は別添に規定するとおりとする。</p> <p>車いす使用者の視界の確保：車いす使用者の外への視界を、座席利用者同様に確保する。</p> <p>・車いすが側方から乗車する仕様の場合にあっては、車内には車いすが介助により転回できるスペースを確保する。ただし、回転盤を使用する場合はこの限りでは</p>
----------	---	---	---	----------	--	--

	ペースを確保する。ただし、回転盤を使用する場合はこの限りではない。	ペースを確保する。ただし、回転盤を使用する場合はこの限りではない。	ペースを確保する。ただし、回転盤を使用する場合はこの限りではない。 <ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者が乗車中に利用できる手すりなどを設置する。 ・車いす使用者の乗車時に介助者（付添人）が利用できる座席を車いすスペースの横に設置する。 		ない。	ない。 <ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者が乗車中に利用できる手すりなどを設置する。 ・車いす使用者の乗車時に介助者（付添人）が利用できる座席を車いすスペースの横に設置する。
室内座席	・4名以上の乗客が乗車できること。車いす使用者乗車時には、車いす使用者以外の乗客1名以上が乗車できること。	・4名以上の乗客が乗車できること。車いす使用者乗車時には、車いす使用者以外の乗客1名以上が乗車できること。	・4名以上の乗客が乗車できること。車いす使用者乗車時には、車いす使用者以外の乗客2名以上が乗車できること。ただし、小型自動車の場合には、車いす使用者以外の乗客1名以上が乗車できれば良いこととする。	室内座席	・4名以上の乗客が乗車できること。車いす使用者乗車時には、車いす使用者以外の乗客1名以上が乗車できること。	・4名以上の乗客が乗車できること。車いす使用者乗車時には、車いす使用者以外の乗客2名以上が乗車できること。ただし、小型自動車の場合には、車いす使用者以外の乗客1名以上が乗車できれば良いこととする。
車いす	・車いすを固定す	・車いすを固定す	・車いすを固定す	車いす	・車いすを固定することがで	・車いすを固定することがで

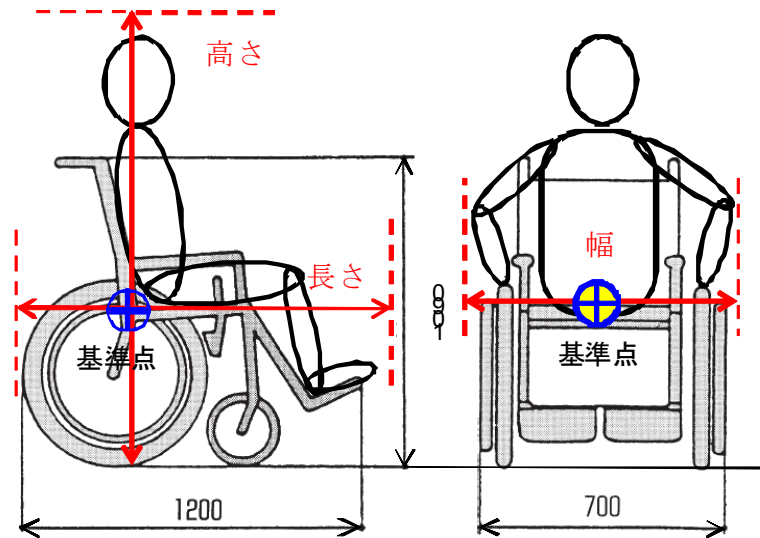
<p>固定方法</p>	<p>ることができる設備が備えられていること。固定装置は、固縛、開放に要する時間が短く、かつ、確実に固定できるものであること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車いす使用者の安全を確保するために、前向き固定とし、3点式シートベルトを設置する。 	<p>ることができる設備が備えられていること。固定装置は、固縛、開放に要する時間が短く、かつ、確実に固定できるものであること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車いす使用者の安全を確保するために、前向き固定とし、3点式シートベルトを設置する。 	<p>ることができる設備が備えられていること。固定装置は、固縛、開放に要する時間が短く、かつ、確実に固定できるものであること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車いす使用者の安全を確保するために、前向き固定とし、3点式シートベルトを設置する。 	<p>固定方法</p>	<p>きる設備が備えられていること。固定装置は、固縛、開放に要する時間が短く、かつ、確実に固定できるものであること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車いす使用者の安全を確保するために、前向き固定とし、3点式シートベルトを設置する。 	<p>きる設備が備えられていること。固定装置は、固縛、開放に要する時間が短く、かつ、確実に固定できるものであること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車いす使用者の安全を確保するために、前向き固定とし、3点式シートベルトを設置する。
<p>車いす、補装具収納場所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車いす使用者が座席に移乗した場合のために、折りたたんだ車いすの収納スペースを確保する。 ・ 車いすの収納スペースは、長さ1,050mm以上、幅300mm以上、高さ880mm以上とする。 ・ 車いす収納スペース 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車いす使用者が座席に移乗した場合のために、折りたたんだ車いすの収納スペースを確保する。 ・ 車いすの収納スペースは、長さ1,050mm以上、幅350mm以上、高さ900mm以上とする。 ・ 車いす収納スペース 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車いす使用者が座席に移乗した場合のために、折りたたんだ車いすの収納スペースを確保する。 ・ 車いすの収納スペースは、長さ1,050mm以上、幅350mm以上、高さ900mm以上とする。 ・ 車いす収納スペース 	<p>車いす、補装具収納場所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車いす使用者が座席に移乗した場合のために、折りたたんだ車いすの収納スペースを確保する。 ・ 車いすの収納スペースは、長さ1,050mm以上、幅350mm以上、高さ900mm以上とする。 ・ 車いす収納スペースが車い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車いす使用者が座席に移乗した場合のために、折りたたんだ車いすの収納スペースを確保する。 ・ 車いすの収納スペースは、長さ1,050mm以上、幅350mm以上、高さ900mm以上とする。 ・ 車いす収納スペースが車い

	<p>ースが車いすの収納以外に利用できない構造の場合にあっては、車内に杖、歩行器、歩行者等の補装具を収納するスペースを設置する。</p>	<p>ースが車いすの収納以外に利用できない構造の場合にあっては、車内に杖、歩行器、歩行者等の補装具を収納するスペースを設置する。</p>	<p>ースが車いすの収納以外に利用できない構造の場合にあっては、車内に杖、歩行器、歩行者等の補装具を収納するスペースを設置する。</p>		<p>すの収納以外に利用できない構造の場合にあっては、車内に杖、歩行器、歩行者等の補装具を収納するスペースを設置する。</p>	<p>すの収納以外に利用できない構造の場合にあっては、車内に杖、歩行器、歩行者等の補装具を収納するスペースを設置する。</p>
<p>その他 の設 備、表 示</p>	<p>・聴覚・言語障害者とのコミュニケーション円滑化のために、筆談用のメモ用紙などを保管できるスペースを設ける。</p>	<p>・聴覚・言語障害者とのコミュニケーション円滑化のために、筆談用のメモ用紙などを保管できるスペースを設ける。</p>	<p>・聴覚・言語障害者とのコミュニケーション円滑化のために、筆談用のメモ用紙などを保管できるスペースを設ける。</p>	<p>その他 の設 備、表 示</p>	<p>・聴覚・言語障害者とのコミュニケーション円滑化のために、筆談用のメモ用紙などを保管できるスペースを設ける。</p>	<p>・聴覚・言語障害者とのコミュニケーション円滑化のために、筆談用のメモ用紙などを保管できるスペースを設ける。</p>

(別添)

車いす固定スペースの寸法の計測方法

JIS の車いす規格で規定された寸法基準点を中心に、長さ、幅、高さを計測すること。寸法基準点は、標準的な乗車における位置とする。



(参考) 各標準仕様認定項目における車いすスペースの規定値

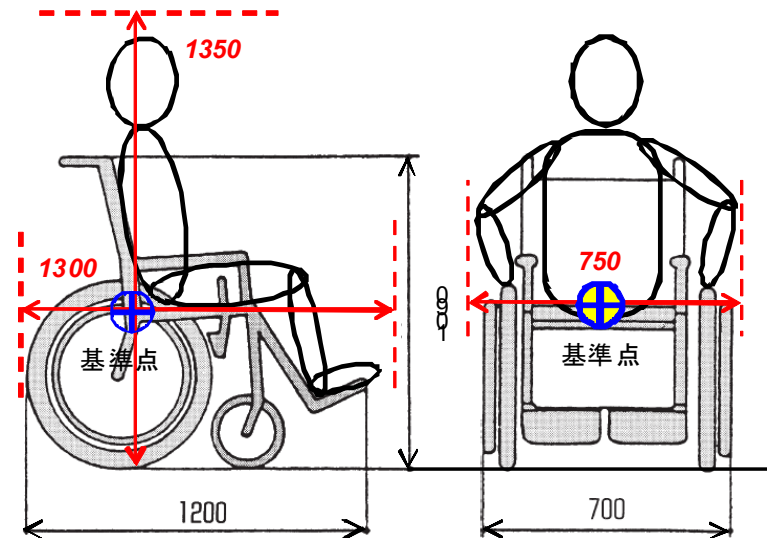
	長さ	幅	高さ
レベル準 1	1,100	630	1,300
レベル 1	1,300	750	1,350
レベル 2	1,300	750	1,400

付図 車いす固定スペースの寸法の計測方法
(図中の数字は、JIS T9201 (手動車いす) 及び JIS T9203 (電動車いす) で規定された最大値。その他の標準仕様認定項目については、別表を参照のこと。)

(別添)

車いす固定スペースの寸法の計測方法

標準的な車いすが乗車できるように、JIS の車いす規格で規定された寸法基準点を中心に計測した場合、長さ 1300mm 以上、幅 750mm 以上、高さ 1350mm 以上 (標準仕様認定項目 (レベル 2) にあっては 1400mm 以上) の空間が確保されていること。寸法基準点は、標準的な乗車における位置とする。



付図 車いす固定スペースの寸法の計測方法 (図中の数字は、JIS T9201 (手動車いす) 及び JIS T9203 (電動車いす) で規定された最大値。赤字は標準仕様認定項目 (レベル 1) において規定された値 (単位は [mm]))

第1号様式

標準仕様ユニバーサルデザインタクシー認定申請書

書類管理番号
年 月 日

国土交通大臣 殿

申請者の氏名又は名称 印
住 所

下記のユニバーサルデザインタクシーの仕様について、標準仕様ユニバーサルデザインタクシー認定要領に基づき、標準仕様を満たしている旨の認定を受けたいので、必要書類を添えて申請します。

記

- 1 車名及び型式
- 2 自動車製作者等名及び住所
- 3 製作工場名及び住所

備考

- (1) 押印に代えて署名することができる。
- (2) 型式については、必要に応じて類別区分番号その他の対象識別に必要な情報を記載する。

(日本工業規格A列4番)

第1号様式

標準仕様ユニバーサルデザインタクシー認定申請書

書類管理番号
年 月 日

国土交通大臣 殿

申請者の氏名又は名称 印
住 所

下記のユニバーサルデザインタクシーの仕様について、標準仕様ユニバーサルデザインタクシー認定要領に基づき、標準仕様を満たしている旨の認定を受けたいので、必要書類を添えて申請します。

記

- 1 車名及び型式
- 2 自動車製作者等名及び住所
- 3 製作工場名及び住所

備考

- (1) 押印に代えて署名することができる。
- (2) 型式については、必要に応じて類別区分番号を記載する。

(日本工業規格A列4番)

第2号様式-1 (レベル準1用)

標準仕様への適合検討書

書類管理番号: _____

車名及び型式: _____

自動車製作者等名: _____

(新設)

部位等	標準仕様認定項目 (レベル準1)	申請する仕様の内容	図面記載の有無	判定結果
乗降口	乗降口の1カ所は、スロープ（別体のスロープを含む。以下同じ。）、その他の車いす使用者の乗降を円滑にする設備が備えられていること。			適・否
	車いすのまま乗車できる乗降口を1以上設け、その幅は640mm以上、高さは1,200mm以上とする。			適・否
	高齢者等の乗降等を円滑にするため、停車時の乗降口（車いす専用の乗降口を除く。）の地上高は、360mm			適・否

	<p>以下とする。ただし、360mmを超える地上高の場合であって、備付けまたは別体の補助ステップ等を備えるときは、この限りでない。なお、補助ステップ等を設置する場合は、高齢者、松葉杖使用者等の乗降補助のために、1段の高さが260mm以下、奥行150mm以上となるような補助ステップ等を設置すること。また、補助ステップ等は2段以内に限る。</p>				
スロープ	<p>車いす使用者の乗降を円滑にするために車いすの乗降口に設置するスロープの勾配は、14度（約1/4）以下と</p>			適・否	

する。				
スロープの車いすの車輪が通過する面の幅は640mm以上とする。			適・否	
車いすのスロープからの脱輪防止のためエッジのある構造とする。エッジの高さは車いすのハンドリムと干渉しないよう留意する。			適・否	
スロープの表面は滑りやすすくない素材又は仕上げとする。			適・否	
スロープの耐荷重は、車いす本体、車いす使用者本人、介助者の重量等を勘案し200kg以上とする。			適・否	
スロープは乗降口から脱落しない構造とする。			適・否	

	<p>スロープと床面に段差ができないような構造とする。</p> <p>ただし、段差が車いすの車輪と干渉しない場合、スロープと乗降口の継ぎ目に僅少な段差を生じる場合その他の車いすの乗降に支障のない段差が生じる場合にあっては、当該段差は許容される。</p>			適・否	
	<p>スロープは使用に便利で、乗客にとって安全な場所に備えられたものであること。</p>			適・否	
床の材質、形状	<p>床（乗降口付近の床を含む。）の材質は、滑りにくい仕上げとする。ただし、材質の性質上、滑りにくいことが確保されてい</p>			適・否	

	<p>る場合はこの限りではない。</p>				
	<p>車いす使用者が安楽で適正な座位姿勢を保てるように、車いす固定スペースの床面は、車いす固定時に車いすの傾斜が15度（約1/4）以下となることを確保する。</p>			適・否	
車いすスペース	<p>次に掲げる規格に適合する車いすスペースを1以上設置する。</p> <p>① 位置：車いすスペースは、車いすの進入しやすい位置に設ける。</p>			適・否	

	<p>② 広さ：車いすを固定するスペースは、長さ1,100mm以上、幅630mm以上、高さ1,300mm以上とする。寸法の測り方は別添に規定するとおりとする。</p> <p>③ 車いす使用者の視界の確保：車いす使用者の外への視界を、座席利用者同様に確保する。</p>			適・否	

	車いすが側方から乗車する仕様の場合にあっては、車内には車いすが介助により転回できるスペースを確保する。ただし、回転盤を使用する場合はこの限りではない。			適・否	
室内座席	4名以上の乗客が乗車できること。車いす使用者乗車時には、車いす使用者以外の乗客1名以上が乗車できること。			適・否	
車いす固定方法	車いすを固定することができる設備が備えられていること。固定装置は、固縛、開放に要する時間が短く、かつ、確実に固定できるものであること。			適・否	

	車いす使用者の安全を確保するために、前向き固定とし、3点式シートベルトを設置する。			適 ・ 否	
車いす、補装具収納場所	車いす使用者が座席に移乗した場合のために、折りたたんだ車いすの収納スペースを確保する。			適 ・ 否	
	車いすの収納スペースは、長さ1,050mm以上、幅300mm以上、高さ880mm以上とする。			適 ・ 否	
	車いす収納スペースが車いすの収納以外に利用できない構造の場合にあつては、車内に杖、歩行器、歩行者等の補装具を収納するスペースを設置する。			適 ・ 否	

<p>その他 の設備 、表示</p>	<p>聴覚・言語障害者と のコミュニケーション 円滑化のため に、筆談用のメモ 用紙などを保管で きるスペースを設 ける。</p>			<p>適・否</p>	
<p>注：「判定結果」については、自動車製作者等が標準仕様認定項目に掲げられた仕様への適否を判定し、適当なものに丸を付すこと。なお、自動車の構造上、該当しない仕様については、斜線を付す等により、該当しないことを明らかにすること。</p>					
<p><u>第2号様式-2 (レベル1用)</u> (略)</p>			<p><u>第2号様式-1 (レベル1用)</u> (略)</p>		
<p><u>第2号様式-3 (レベル1用)</u> (略)</p>			<p><u>第2号様式-2 (レベル2用)</u> (略)</p>		

附 則

- この要領は、令和6年4月1日から適用する。
- 立体駐車場を利用できる高さの制限が未だに厳しい状況にあることに鑑み、この問題が解決されるまでの当分の間、別表及び第2号様式の「標準仕様認定項目(レベル2)」中「車いすのまま乗車できる乗降口を1以上設け、その幅は800mm以上、高さは1,350mm以上とする。」とあるのは「車いすのまま乗車できる乗降口を1以上設け、その幅は800mm以上、高さは1,300mm以上とする。」と、「広さ：車いすを固定するスペースは、長さ1,300mm以上、幅750mm以上、高さ1,400mm以上とする。」とあるのは「広さ：車いすを固定するスペースは、長さ1,300mm以上、幅750mm以上、高さ1,350mm以上とする。」と読み替えて、別添中「長さ1300mm以上、幅750mm以上、高さ1350mm以上(標準仕様認定項目(レベル2)にあっては1400mm以上)」とあるのは「長さ1300mm以上、幅750mm以上、高さ1350mm以上」と読み替えて適用する。
- 本改正によりレベル準1の標準仕様ユニバーサルデザインタクシーとして認定される車両について、当該車両が認定されるまでの間に同一の仕様を持つ車両の登録がある場合、その車両についても標準仕様ユニバーサルデザインタクシーとして扱うことができるものとする。